

殺虫剤

登録番号 第16575号

オンコル粒剤5

(ベンフラカルブ粒剤)



- 有効成分 ベンフラカルブ 5.0%
- 性状 青緑色細粒
- 毒性 普通物
- 有効年限 4 年
- 包装 500g×40袋/ケース 3kg×8袋/ケース
- 化管法 ベンフラカルブ(1種) 5.0%

【特 長】

1. 植物全体に速やかに浸透移行するので、生長の盛んな部分を含め植物全体を害虫から守ります。
2. 残効が長く、水稲の育苗箱散布でイネミズゾウムシに対する効果は40～50日間期待できます。
また、とうがらし類のミナミキイロアザミウマ、きくのミカンキイロアザミウマに対しても高い効果が期待できます。
3. 広い殺虫スペクトラムをもち、広範囲の害虫に有効です。
4. 安定した殺虫力をもち、抵抗性害虫に対しても有効です。

【適用害虫と使用方法】

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンフラカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネヒメハモグリバエ イネハモグリバエ	育苗箱1箱*当り 30～60g	移植前3日 ～移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。	1回
		高密度には種 する場合は 0.6～1.2kg/10a (育苗箱1箱*当り 30～120g)	移植当日			
	ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ	育苗箱1箱*当り 50～80g	移植前3日 ～移植当日			
		高密度には種 する場合は 1～1.6kg/10a (育苗箱1箱*当り 50～160g)	移植当日			

*育苗箱は30×60×3cm、使用土壌約5ℓ

作物名	適用害虫名	使用量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベンフラカルブ を含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	イネシンガレセンチュウ	育苗箱 1箱*当り60g	移植前3日 ~移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。	1回
		高密度には種 する場合は 1.2kg/10a (育苗箱1箱*当り 60~120g)	移植当日			
とうがらし類	ミナミキイロアザミウマ	0.5g/株	育苗期後半 又は定植時	1回	株元散布	3回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、 培土時の 土壌混和 及び 株元散布は 合計1回以内、 散布は 1回以内)
ひろしまな	アオムシ モモアカアブラムシ	1g/株	育苗期後半			
メキャベツ 蕪菜 キャベツ	アブラムシ類		定植時			
らっかせい		9kg	は種時		全面土壌混和	
さといも	コガネムシ類幼虫	6~9kg	生育期 但し、収穫 60日前まで		株元土壌混和	
	アブラムシ類		植付時		植溝土壌混和	
さとうきび	コガネムシ類幼虫 ハリガネムシ類 メイチュウ類	6~9kg	植付時		植溝土壌混和	
	コガネムシ類幼虫	9kg	培土時		株元散布 又は 株元土壌混和	
	メイチュウ類	4~6kg			散布	
	カンシヤコバネナガカメムシ	6kg	収穫100日 前まで		植溝土壌混和	
鱒用 さとうきび	コガネムシ類幼虫 ハリガネムシ類 メイチュウ類	6~9kg	植付時	1回		
	コガネムシ類幼虫	9kg	培土時			
	メイチュウ類	4~6kg				
花き類・ 観葉植物 (きく、 ストック を除く)	アザミウマ類	6kg	生育期	3回以内	株元散布	4回以内
きく	ミナミキイロアザミウマ	6~9kg	定植時	1回	植溝土壌混和 又は株元散布	
	ミカンキイロアザミウマ	9kg	生育期	3回以内	株元散布	
ストック	コナガ	0.5g/株	定植時	1回	全面土壌混和	
	アザミウマ類				株元散布	
樹木類 (つつじを 除く)	アブラムシ類	6kg	生育期	3回以内	株元散布	

作物名	適害虫名	使用量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベンフラカルブ を含む農薬の 総使用回数
つつじ類	アブラムシ類	6kg	生育期	3回以内	株元散布	4回以内
	コガネムシ類幼虫	9kg			全面土壌混和 又は 株元土壌混和	
たばこ	アブラムシ類	6kg	定植期	1回	作条土壌混和	1回
	アザミウマ類	3~6kg				

*育苗箱は30×60×3cm、使用土壌約5ℓ

【使用上の注意】



1. 本剤を使用した場合には、カルボスルファンを含む剤は使用しないでください。
2. 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
3. 稲の育苗箱に使用する場合
 - ①育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
 - ②育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が0.6から1.6kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を30から160gまでの範囲で調整してください。
 - ③軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
 - ④稲苗の葉が濡れている場合薬害が生じやすいので、葉に付着している露を払い落としてから薬剤を散布し、軽く散水してください。
 - ⑤誤って過剰に使用すると葉先枯れ等の薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守してください。
 - ⑥本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけてください。
 - ⑦本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後後面が露出したりしないように注意してください。移植後は直ちに湛水し、極端な浅水、深水はさけてください。また、深植にならないように注意してください。
 - ⑧本田への移植後低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけてください。また、移植後極端な高温が続くと予想される場合も使用をさけてください。
4. カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用后14日間は入水しないでください。
5. たばこに使用する場合
 - ①過剰に使用すると葉縁が黄化するなど薬害を生じるおそれがあるので、使用量および使用回数を厳守してください。
 - ②育苗期に使用する場合には、育苗期後半（定植7日前から定植時）に使用し、前半の使用はさけてください。
 - ③軟弱徒長苗では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
 - ④高温乾燥期の使用は薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
6. ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。

7. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
 8. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 9. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 10. 誤食などのないよう注意してください。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
 11. 本剤による中毒の治療法としては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されています。
 12. 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 13. 使用の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
 14. 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
 15. 稲（箱育苗）に使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - ①水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
 - ②水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
 16. 畑地に使用する場合は、次の事項に注意してください。
水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
 17. 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- ※ たばこに使用する場合は、日本たばこ産業株式会社の指導を受けてください。

【貯蔵上の注意】

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥し子供の手の届かない場所に密封して保管してください。